

基本目標 4

誰もが楽しめる

都市空間づくり

取組13

歴史や文化、個性など、まちの魅力に
容易にアクセスできる配慮をする

《魅力あるまちの回遊性の向上》

取組14

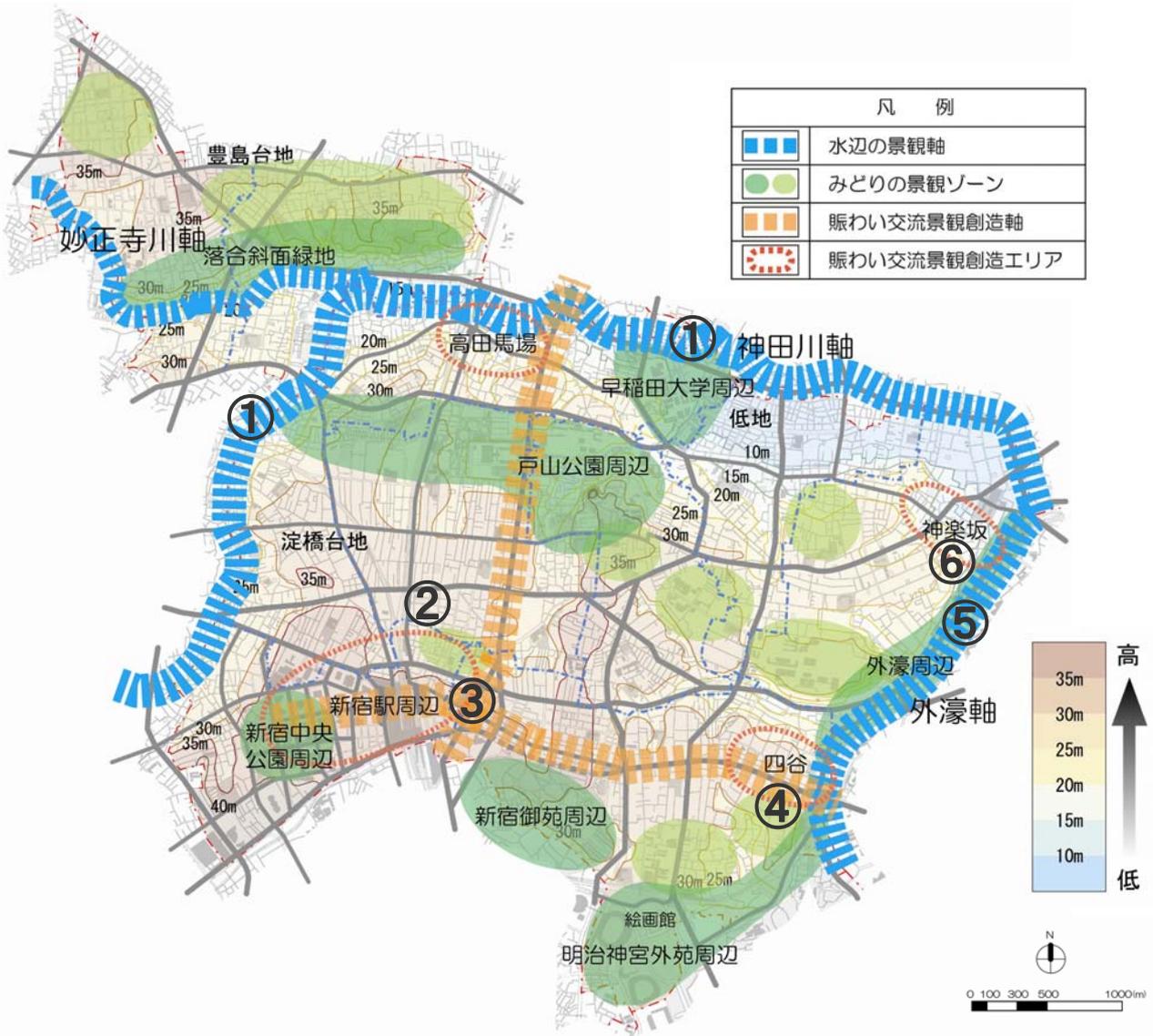
道路や広場などの公共的な空間を
活用して、さまざまな人々の交流を創出する

《空間の活用・演出によるにぎわい創出》

新宿区の景観とまちづくり

新宿区は、豊島台地、淀橋台地とそれらに挟まれて東西に伸びる下町低地、区の外周を取り囲む神田川、妙正寺川、外濠、明治神宮外苑、落合斜面緑地のみどりなど、変化に富んだ地形により構成されます。その上で展開されてきた多様な都市活動により、江戸時代から歴史や文化を感じさせる神楽坂の路地、新宿駅西口超高層ビル群の都市景観、新大久保駅周辺のアジアの異国情緒あふれる界隈、落合のみどりあふれる閑静な住宅地のまち並みなど、個性的な景観が形成されています。

平成21年4月には、「新宿区景観まちづくり計画」を策定し、区内の多くの地域で輝きを放っている「個性的で多様な景観」を、区の魅力として、また、貴重な財産として活かしながら景観まちづくりを推進しています。



(景観まちづくりの方針図)

[出典：新宿区都市マスタープラン]

① <神田川> 水とみどりの潤いある歩行空間

神田川沿いの桜並木の遊歩道は、日常の散歩や散策、また、春には多くの行楽客でにぎわいます。

また、神田川における生態系の回復や親水性の向上を図るため、区では平成10年度から「アユが喜ぶ川づくり」事業を実施しています。



② <大久保> 国際色豊かなまち

大久保地域は、大久保通りから職安通り、新大久保駅周辺に韓国料理やアジア各国の料理店が建ち並び、国際色豊かなまちです。



③ <新宿三丁目> 道路空間を活用したにぎわい創出

鉄道駅が集積し大規模な商業施設が建ち並ぶ新宿駅周辺には、平日、休日とも多くの来街者が訪れます。

新宿通りでは、日・祝日の昼間は歩行者天国となり、安心して散策やショッピングを楽しむことができます。



④ <四谷> 歴史と文化のかけはし

服部半蔵、長谷川平蔵、滝沢馬琴など江戸時代から親しまれてきた人物ゆかりの四谷は、明治神宮外苑に近現代を感じるスポーツ施設や文化施設が集積しています。

江戸時代には見附が置かれ交通の要衝となりました。その名残が四谷見附門と四谷見附橋です。四谷見附橋はフランス風クラシック調のデザインで、まち並みに趣を与えています。



⑤ <外濠> 広大な水面と豊かなみどり

区の外周を取りまく神田川や妙正寺川、外濠（史跡江戸城外堀跡）を軸とした水とみどりの潤いあふれる空間は、都心における貴重なオープンスペース*であるとともに、潤いと憩いの場となっています。



⑥ <神楽坂> 歩いて楽しむ風情あるまち

神楽坂は、江戸の情緒を今に残し、善國寺をはじめとする古い寺や神社、石畳の路地が風情を醸し出しています。

明治～昭和初期には、新しい東京の盛り場としてにぎわい「山の手銀座」と呼ばれました。

魅力あるまち並みは、フランスをはじめ多くの外国人居住者、観光客を惹きつけています。一方で、坂や路地が多く高齢者や障害者、子ども連れの人などさまざまな人々が歩いて楽しめる配慮が必要です。



さまざまな人々が、まちをゆったり歩いて散策できるように、施設へのアクセスを容易にするとともに、施設への案内誘導やトイレ、授乳施設などの情報を充実し、まちの回遊性を高める必要があります。

◆まちの現状と課題

- 魅力あるまちや施設にアクセスするのに、歩行空間や建築物にバリアがあります。
- 安心してまちを楽しむための案内誘導や、トイレ、授乳施設などの情報が少ない状況です。

○歩行空間や施設アクセス上のバリア

坂道の多いまちや細街路のまちでは、車いすやベビーカーでの移動には負担があります。また、間口が狭い建築物や、道路との境界に段差が生じ、車いすによる建築物の利用が困難な場合があります。

石畳調などの舗装材は歴史あるまち並みとの調和や歩行者優先道路のイメージ形成に適していますが、目地が大きく、歩きにくい場合があります。



坂道が多いが、ベビーカー利用者も多く訪れる歴史あるまち



魅力的な路地だが、車いすでは利用しにくい



魅力的な路地だが、車いすでは利用しにくい



散策が魅力の一つだが、階段や坂道が多いまち

○楽しく安心して散策するための情報の不足

観光客や外国人へのまちの歴史の紹介や観光施設までの案内・誘導の情報が不足しています。また、高齢者や障害者、子ども連れの人々が安心して散策できるように、トイレや授乳施設の情報が必要です。



舗装の目地幅が大きいと高齢者やハイヒールでは歩きにくい



趣あるまち並みを歩いて楽しむことが観光客や外国人を惹きつける魅力となっている



多言語で表記された案内板により、まちの歴史や文化を観光客や外国人に伝えている

◆望まれるまちの姿（課題を解決するための取組の方向性）

○さまざまな人々がまちの魅力に容易にアクセスできるための、歩行空間や施設アクセスのバリアフリー※化

○まちを歩く楽しさや安心感を高める情報提供の充実

○魅力あるまちに容易にアクセスできるように

まちの歴史や文化をゆったりと楽しむためには、さまざまな人々が自由に利用できるトイレを確保したり、わかりやすい施設の案内の充実、休憩所の確保などが重要です。

文化財や歴史的建造物等についても、さまざまな人々が訪れることを考慮して、歴史的価値を損なわない範囲でスロープ設置等のバリアフリー化を図っていく必要があります。

また、個々の施設や店舗の対応としてポータブルスロープの利用や、移動補助具の貸出し、裏口を開放するなどの工夫も必要です。



飲食店等のトイレを開放することで観光時の安心感を高めている(倉敷市美観地区)



電動スクーターや車いすを貸出すことで、高齢者や障害者も安心して観光することができる(輪島市)



エスカレーターを設置することで、さまざまな人がアクセスしやすくなっている(山王日枝神社)



観光マップや駅施設・ホテル等と連携した情報提供により、容易にまちの情報を得ることができる(歩きたくなる新宿観光案内所)



○まちを歩く楽しさや安心感を高める情報を提供するために

観光客や外国人などがより楽しく安心してまちを歩けるように、まちの歴史や文化の紹介や、観光施設までの案内や誘導を充実していく必要があります。

○まちをよりよくするための取組例 人的サポートの充実

ボランティアセンターの設置など、高齢者や障害者など移動に制約のある人の手助けの仕組みや心配りなど、人によるサポートも重要です。



人的サポート

[出典:観光のユニバーサルデザイン化 手引き集/国土交通省総合政策局]

ガイド団体がまち歩きをコーディネートし、だれもがまちの魅力を体験できるよう取組を進めています。(新宿区)



新宿まち歩きガイドによるツアー (新宿まち歩きガイド運営協議会事務局)

○まちをよりよくするための取組例 新宿のまちを楽しく安心して散策するための情報提供

地域の歴史や文化などの魅力や散策ルートを紹介し、新宿のまちの情報発信を行っています。



新宿まち歩きマップ

駅やバス停留所のバリアフリー情報やだれでもトイレ※の位置、避難場所などの情報を総合的に提供することで、高齢者や障害者などが安心してまちを楽しめるよう配慮しています。



新宿やさしいまちガイドマップ

まちのにぎわいや交流を創出し歩いて楽しめる都市空間づくりを進めるために、道路や広場などの公共空間や、大規模な民間施設の公開された空地などを活用して交流スペースを増やし、さまざまな人々の利用に配慮した休憩や交流のできる空間の充実が必要です。

◆まちの現状と課題

- 広場などの交流スペースが少ない状況です。また、高齢者や障害者、子ども連れの人などが快適に休憩できるためのベンチなどが十分ではありません。
- 建築物周辺のオープンスペース*が有効に活用されていません。

○有効に活用されていないまちのオープンスペース

歌舞伎町、新宿駅東口方面では、道路空間を活用して休憩・にぎわいスペースを確保する取組を進めています。

広場自体には、ベンチや緑陰など休憩できるスペースが少ないため、周囲の段差などに腰掛けている人が多くみられます。



広場を利用したオープンカフェ*
休日等にはさまざまなイベントにより盛り上がりみせるが、イベントのない時は閑散としている



休憩する場所が少ない駅前広場
夜にはストリートミュージシャン達の活躍の場になっている

○有効に活用されていない建築物周辺のオープンスペース

公開された空地として生み出されたまちの貴重なオープンスペースが有効に利用されていない場合があります。

空間が閉鎖的であったり、みどりやベンチ、サインなどが不足しているため、利用されない空間になっている場所も見られます。



車中心となっている駅前広場
広大な空間が車のためだけに利用されている



交流スペースとしての活用が期待される建築物周辺のオープンスペース



広い空間があっても、木陰がないため人が集まるのは休憩施設がある部分のみとなっている



休憩施設やみどりが充実した建築物周辺のオープンスペースには人が集まりやすい

◆望まれるまちの姿（課題を解決するための取組の方向性）

- 道路を交通機能だけでなく、人々の交流・交歓の場として活用
- 多くの人が訪れる大規模建築物周辺のオープンスペース*を、交流空間として積極的に活用

○道路空間を活用してにぎわいを創出するために
十分な交通上の処理をした上で、道路空間をオープンカフェ*やイベントなどに活用し、まちのにぎわいを創出することができます。

週末の業務街は人通りが少なくなるため、休憩場所の提供やオープンカフェとしての活用により、観光客や高齢者等の散策に利用できる空間として活用できます。

また、休憩場所等が一般に利用できることを知らせる案内サインなどの充実により、人の流れを誘導することも必要です。



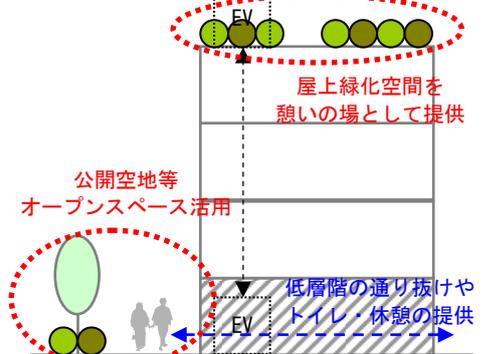
道路空間を活用し休憩スペースを提供することで、まちのにぎわい創出に役立っている(MOA4番街オープンカフェ社会実験*)



道路を利用した祭りにより、地域の交流促進や魅力の発信に活用できる(神楽坂通り・神楽坂祭り)



道路をオープンスペースとして活用した祭りなどのイベントを開催することで、まちのにぎわい創出に役立っている(新宿通り・エイサー祭り)



大規模な建築物周辺のオープンスペースを活用し休憩や憩いの場を提供することで快適性を高められる

○建築物周辺のオープンスペースを交流空間として活用するために

大規模な建築物などの周辺のオープンスペースでは、休憩施設や緑陰を提供し、利用者が落ち着いて時間を過ごせる空間づくりを進める必要があります。

屋上緑化空間を地域に開放し、にぎわい創出を図るなど交流空間を生み出していく必要があります。



カフェなどのサービスや休憩施設、日陰を提供することで、人が集まりやすい空間をつくらせている(西新宿サンクンガーデン)

○まちをよりよくするための取組例

人の集まるイベント時の配慮
さまざまな人々が集まるイベント時には、高齢者や車いす利用者に対応した会場設営や障害に応じた補助具の導入、わかりやすい会場案内などのほか、イベントスタッフの接遇の教育などにより、さまざまな人が参加できる配慮が必要です。

○まちをよりよくするための取組例 人の集まる空間づくりとさまざまな人々が利用できる配慮

オープンスペースにシンボル性の高いモニュメントやアート等を設置することで、まちに楽しさを与えると同時に、待ち合わせ場所としての機能を果たしています。

屋上緑化空間を開放するとともに、イベント等にも利用しています。車いすでも安心して利用できるバリアフリールートも整備しています。



広場に置かれたシンボル(西新宿)



百貨店の屋上緑化空間



バリアフリールート